

# 校内研修計画

笛川中学校

## 1. 学校課題

本校は本年度より、義務教育学校「笛川学園」としてスタートを切った。学校教育目標は「故郷を愛し 故郷に誇りをもち 自ら未来を創造し 切り拓く たくましく しなやかな心をもった児童生徒の育成」である。この教育目標のもと、社会や世界への関心をもち、より良い社会の形成に参画する態度や課題を発見し解決に向けて論理的に思考する力、また、リーダーシップ・コミュニケーション能力等を身に付けさせることを目指す。さらに、義務教育9年間の出口戦略として「行ける学校より、行きたい学校」を自ら選択し自分の未来を切り拓いていくことができる学力を身に付けさせることを目指す。

## 2. 研究主題

### 未来を切り開く『自ら探究する児童生徒』の育成

～確かな基礎学力と9年間のカリキュラムを軸にした授業づくりを通じて～

## 3. 主題設定の理由

上記学校課題、および身に付けさせたい資質・能力の育成のための方向性は3点である。主題設定はこの3点を包括するものとして設定した。

1点目は、「基礎学力、知識・技能の習得」である。これは、まさに一丁目一番地であり、すべての力の土台であると考えられる。従来の知識・技能を習得させる一斉授業とICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びの充実とのバランスをとりながら、児童生徒にとって、希望の進路実現が叶う結果を出すための授業づくり・学習支援に取り組む。

2点目は「カリキュラム開発」である。9年間の学びを系統的にとらえ、それぞれの学年で具体的にどのような力を身に付けさせるのか、この牧丘三富地域(階上地域)の特色を活かした教科横断的なカリキュラムを開発したい。また、外部機関とも連携しながら多面的な視点で進めていきたい。

3点目は「PBL 及び総合的な学習の時間の核になる、探究活動」である。これからの社会は変化が激しく予想不可能であると言われる。そのような時代に必要な力は他者と協働しながら、正解のない問題を解決していく力である。学習と社会との繋がりをもたせ、探究の力を育成させていくことが必要である。

以上により、自ら探究し、自分の未来を切り拓いていくことができる児童生徒を育成していきたい。

## 4. 研究の具体的内容と方法

### 【研究内容】

#### ①基礎学力、知識・技能の習得

- \* 自分の未来にはばたき、「探究」という冒険に出るための装備（武器）  
希望の進路実現が叶う結果を出すための授業づくり・学習支援

#### ②カリキュラム開発

- \* 9年間迷わずに進むための地図（ルート）

#### ③PBL 及び総合的な学習の時間の核になる、探究活動

- \* 装備と地図を使って挑む冒険そのもの（実戦） 学習と社会の繋がり

【研究の方法】

(1) 指導方法のシェア

基礎学力定着を観点に以下の内容を行う。

- 模擬授業研修または、校内講師研修会
- 取組発表会

(2) 探究スキルのステップアップ表の作成（9年間）

「出口」から逆算した系統表の作成

【例】「問いを立てる力」「課題を設定する力」の育成の場合

低学年では「不思議探し」、高学年では「比較・分類」、

中学生では「多角的な考察」と、学年に応じた探究スキルのステップアップを明確にする。

(3) PBL についての実践研究

- 取組の報告会と授業計画の打ち合わせ
- 外部講師を招聘しての研修会

5. 年間研修計画

回	2026年度 研究会予定	校内研究	講師
1	4月 6日(月)	今年度の研究の方向性の提案(全体研究会)	
2	4月13日(月)	取組内容・年間計画・学習評価の協議(全体研究会)	
3	5月11日(月)	★部会別研究会	
	5月13日(水)	ブロック交流① 模擬授業研修、または校内講師研修	
4	6月 8日(月)	PBL 取組の報告会と授業計画の打ち合わせ	
5	7月 6日(月)	★部会別研究会	
6	夏休み中	特別支援教育研修	
7	8月19日(水)	PBL 外部講師研修会	○
8	9月30日(水)	PBL 探究スキルのステップアップ表について検討会	
9	10月16日(金)	PBL 取組の報告会と授業計画の打ち合わせ	
	11月 4日(水)	ブロック交流② 模擬授業研修、または校内講師研修	
10	11月 9日(月)	★部会別研究会	
11	12月 7日(金)	授業改善取組発表会	
12	1月15日(金)	PBL 取組の報告会と授業計画の打ち合わせ	
13	2月 8日(月)	模擬授業研修、または校内講師研修	
14	3月 1日(月)	授業改善取組発表会	

(研究主任 雨宮 正倫)